



神聖かまってちゃんとゲスの極み乙女

奇跡的にロックンロール覚醒してしまったバンド

神聖かまってちゃんとゲスの極み乙女

———奇跡的にロックンロール覚醒してしまったバンド

タレントであるベッキーとの交際のニュースでいまやすっかり知る人ぞ知るバンドになったゲスの極み乙女。それまで存在は知ってたし曲もなんとなく聞こえてくるけど、熱心なリスナーではなかった。しかし、今回のニュースですっかり彼らが気になってしまったという人は多いはず。私もその一人である。



入門としてまずは彼らの歴を簡単に記しておく。男2人女2人からなるバンドで、2012年に結成。作詞・作曲はボーカルである川谷絵音が担当している。

私が初めて彼らを認識したのは2013年のスペースシャワーTVイチオシの新人バンドが出るイベント『スペースシャワー列伝』だ。このときはハルカトミユキ、きのこ帝国が対バン相手となっていた。名前が特別なので一度目にしたらなんとなく覚えてしまう。「下衆の…下衆の……、ゲスのなんとか」という具合だ。

先日テレビ番組の「関ジャム」で下衆の極み乙女が出た。即興で1曲作るということがなされていた。他の番組ならカットされて5分くらいに縮められてしまうと思うが、この番組では30分程度の時間がそこに割かれており、曲作りの様子からメンバーの関係性が見えたり音楽的指数が見えたりしてなかなか凄い映像だった。情熱大陸やNHKのドキュメンタリーは見習ってほしいと思うほど。

その即興曲のサビの歌詞はこうだった。

「透明にならなくちゃ 透明にならなくちゃ」

大学の教授であり社会学者の鈴木謙介はラジオ番組『文化系トークラジオLife』でこう語っていた。「今年の（2015年）学生なんか見てると、目立ちすぎないようにしてるんですね。周りと比べて浮かないように、って。平均を取ろうとしてる。それはファッションもそうだし」。

確かに。私の住んでいる地域は都会ではないが、去年まで明るい色の上から羽織るものを着ている人をそこそこ見かけた気がするが、今年はある見ない。私の実感としてもそれは感じられた。

番組で川谷が「透明にならなくちゃ透明にならなくちゃ」と歌ったのを観たときに彼は天然じゃなくてかなり確信犯のタイプなんだと感じた。おそらくこの曲は出せばかなり多くの人から支持されていくだろうし、売れるだろうと思った。おそらくライブをしていてゲスの極み乙女がウケると感じたときにゲスの極み乙女という存在がウケたというよりも自分の方法論は間違っていないと確信したのではないか。だから、インディゴは切る必要は全くなかった。なぜなら、自分の思う方法なら遅かれ早かれ必ずメジャーデビューできると確信をもっているからだ。川谷は音楽的にとても頭のキレる確信犯である。



世間的には結構ニュースになっている川谷。おさらいをしておくと、5月に結婚した新婚の川谷がベッキーと付き合っていて、奥さんと別れてベッキーと結婚するつもりのメールが流出。世間の様子としては、そういうことってありえるかもね…という人は黙り、川谷許すまじという人がネットで声を挙げ、ベッキーはCM無くなってって結構かわいそうだなという人達、という感じだろうか。

下衆の極み乙女だが、私はこのバンドが今回の件によって実はロックンロールとして覚醒してしまったと思った。

いろんな解釈はあるものの、私はロックンロールとは隠されている真実を語り、少数派に寄り添うものだと思っている。RCサクセッションならば「きみ、かわいいねでもそれだけだね」であるし、ブルーハーツならば歌で「オレ」ではなく「ボク」という一人称を使って気弱な者のためにロックを鳴らした。（ピアスもせず刺青もせず、マンガやフィギュアなんかのオタク的なものが好きでありながら「ロックが好きだ」と引け目なく今私たちが言えるのは甲本ヒロトが作った道だと考えている）。

今回の川谷の件で明らかになったのは、結婚したところでその相手を上回る人に出会ってしまう事はあるということである。つまり、自分にとってこれが1番だ！と確信をもったとしても決めた後になって「あれ…？これちがったんじゃないか…？」とってしまうことがありえるということなのだ。例えば、フランシス・F・コッポラの映画の金字塔『ゴッドファーザー2』は自分でした決定とどう対峙していくかの物語である。



この映画が世界中でファンがいるのはそのような事は人間がもっている普遍的な事だということだ。結婚後、それも新婚の状態ですらにそれを上回る人が現れて当然好きになってしまうこと、おそらく世の中にゴマンとあることなのだ。しかし、道徳的には良くないこととして批難される。今回の件、ネットはもちろんテレビでも異常に強くピックアップされているように見える。道徳から反することをマスメディアはもちろんネットでさえ言いづらくなっているからだ。潔癖になってきている分、このような事が起こると大きく騒ぐ。先ほど記述した、社会学者の鈴木謙介が言うように浮いてしまわないように気を使うという話とも繋がる。

現代はものが言いづらいのだ。

そこで今回のゲスの極み乙女である。川谷とベッキーのニュースを見たあとに彼の楽曲を聞くといま現在進行形で起こっている三角関係を歌っているように聞こえてくるのだ。とくに2015年にテレビで聞いた曲を思い出すと、謎が解けるように「これはこういう意味にとれるか？」と思えてくる。分かりやすいところでいうと今回のニューアルバムである『両成敗』。タイトルが両成敗である。

かつて作家の小林よりのりはある殺人事件をオウム真理教の仕業ではないか？とマンガで描き、いま警察呼んで問一髪だったが待ち伏せされてて殺されかけたという今まさにリアルタイムで起こっているバトルをマンガ連載していた。読者は実際に起こっている戦いにハラハラドキドキして小林よりのりのマンガを読んでいたという。

それと似たように、ゲスの極み乙女には世間と強くシンクロしたリアルタイム感が発動している。

ミュージックステーションでサカナクションの山口は彼らの作る楽曲は良い意味でキャッチコピー的ですよ、好きです。そう語っていた。彼らには世間にウケるように確信的な部分があり、見方によっては無機質な感じもした。しかし、今回の件で分かったのは川谷絵音は自分の生活を濃い濃度で作品にブチ込む作家性バリバリの人間だったということだ。『両成敗』ってタイトルからして自分の生活を作品にフィードバックさせる作家ということを示している。

結婚した後の三角関係を描いた文学は数多くある。映画もある。歌だって歌謡曲ならば多くあるだろう。しかし、今現在その関係で悩んでいる人は1番に何をするかといえばゲスの極み乙女の楽曲を聴くことのはずだ。世間から認知されているからこそ若い人だったならば選択肢として最初に来る。加えて、「君が好きだ(った)」といった単純などんな歌手が歌ってもべつに変わらないような道徳的に正しさしかない歌ばかりの現代で、その悩みを持つ人が聴ける音楽は川谷の作った歌しかない。

もしかしたら「ロマンスがありあまる」や「わたし以外わたしじゃないの」は聴く人が聴いたらそういう内容だと気づいていたかもしれない。しかし、ここで重要なのはその楽曲が世間のド真ん中で認知されて、世間のド真ん中にぶち込まれたことである。

今にして思うと元々描かれていたのだが、誰もそんな作品だと思ってなかったまま紅白歌合戦やなんかで皆に届けられた。ニュースで皆が歌の真の内容に気付いたときに、本来自分に届けられるはずでないものだったことを知る。不道徳な歌をめっちゃめっちゃ刷り込まれていたのだ。これはテロだ。ロックのテロである。世間に対して不道徳とされていることをド・メジャーでぶつけたのだ。

まとめると彼らがロックンロールとして覚醒した理由は2つある。一つは「結婚のすぐ後に心が覆ってしまうことはある」という表だって言えない人間がもつ確かな真実をブチまけて世間に認知させたこと。もう一つは、そんな不道徳な悩みを持つ者の心のよりどころとなったことである。

作家性が爆裂している作家はたくさんいる。しかし、世間の関心がそれにシンクロしていく事は驚くほどない。奇跡みたいなものだ。ゲスの極み乙女はスーパーマリオでいうならスターを取った状態である。彼らにとっては不本意だろうが、次の一手はどこまでも広く行き届くだろう。ロックスター状態である。



神聖かまってちゃんのの子の作家性といったらとてつもない。不道徳性もとてつもない。「死ねええええ」と叫ぶから。とはいえ、人間は人に対して死ねと欲してしまうものだし、それは何一つ間違っていないのだ。ロックバンドとはそういう毒を持って世間にぶつけるものだと思うのだ。死にたいと思ってもいいんだなと思ったときにはじめて生きようと思える。

彼らが「死ね」と言うから私は生きやすくなった。彼らをもっと世間で認知されてそれを行ったならどれだけの人が生きていいんだと思えるようになるのか。計り知れないと思うのだ。←

うおお

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ